

宇都宮市立今泉小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校のじゅ業の予習をしている」への肯定的回答率は60.4%で、県や市を5ポイント以上上回っている。このことから、5年生は新しい学習内容に対する備えをして授業に臨む計画的な学習姿勢があると言える。

○「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」への肯定回答率は県や市を15ポイント近く下回っている。自分の考えを記録し表現する活動を授業にできるだけ取り入れている結果、児童が自分の考えを書くことに慣れてきた成果だといえる。今後も、自分の考えを書く時間を確保していきたい。

○「国語の学習が好き」への肯定的回答率は79.1%で、県や市を10ポイント近く上回っている。「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは辞書を使って調べている」への肯定的回答率は、84.6%と県や市を15ポイント近く上回っている。進んで学習に取り組む姿勢が、学習意欲の高さにつながっていると推察される。他教科においても、児童が自ら学習を進める方を紹介し、自分で取り組み学習を好きになっていく流れを後押ししていきたい。

○47.3%の児童が携帯電、スマートフォンを持っている。そのうち使用時間が30分以下と回答した児童は29.7%とほとんどの児童に乱用の様子は見られない。これからも節度をもった使用の仕方について声かけをつづけていきたい。

●「家で、学校のじゅ業の復習をしている」への肯定的回答率は61.5%で、復習への取り組みは県や市の回答率とほぼ同じである。予習への取り組みに比べると、復習への意識が低いことが分かる。「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」への肯定的回答率もほぼ同程度であることから、授業やテストで見つかった課題を解決するための自主学習ができるように指導していきたい。

●「できるだけ自分ひとりの力でものごとを解決しようとしている」への肯定的回答率は、80.2%と県や市を5ポイント近く下回っている。本校では、児童相互の学び合いによって、一人ではできない成長を促すことを目指している。物事と真摯に向き合い、考え、自分から誰かと関わることで解決していこうとする方策をもつこと、それも自分の力であることに気付けるような声かけをしていきたい。

●学校がある平日のテレビやビデオの視聴時間が1時間以上と答えた児童は91.3%。同じく平日のテレビゲームの使用時間が1時間以上と答えた児童は55.1%。半数以上の児童が家庭で過ごす時間の2時間以上をテレビやゲームに使っている。小学生として必要な学習時間の確保とともに、家族の一員としての仕事や回らんの時間等の大切さを啓蒙することで、電子機器を伴った時間の使い方に偏っていくことのないように指導していきたい。